

細江昌雄 ほそえ ちやうじゆう 歌人、本草家。嘉永五年（一月七日大坂今橋筋尼ヶ崎
 生れ、明治二十四年四月十九日歿（八三—一九〇一）。鴻池屋井上市兵衛
 の六男、幼名收五郎 いぬごろう。のち京都の木綿問屋水楽屋細江伊兵衛の養子と
 なり、謙太郎と改名。明治五年伊兵衛を襲名すると、九年家督を譲り
 分家。本来 おもね字 あいはとあり、雅男を改め昌雄を通稱とした。諱富穀。號櫻園、
 玉花園。山本七羊・溪愚父子の本草學を學び、和歌は桂園香川景樹の
 直流渡忠秋の入室の弟子で、京都桂園派の中心人物となつた。また櫻
 園社を興し古今集の講義、萬葉植物に就いて講席を設け、時に富岡
 鐵齋、杉浦立園等とその業を受けたりと。儒佛を排し神道を信仰、
 同志と共に吉田神社の麓に祖靈社を創建、先人を祀つた。吉田山神樂
 岡の神道墓地に葬られ、その墓銘は鐵齋の筆に成る。

「狂言歌集」(昭和十一年九月)『歴史と國文學』第十七卷第一號所載)

『昌雄遺集』(須羽源一編、昭和二十六年四月十四日京都・細江昌吉

刊)があらる。

